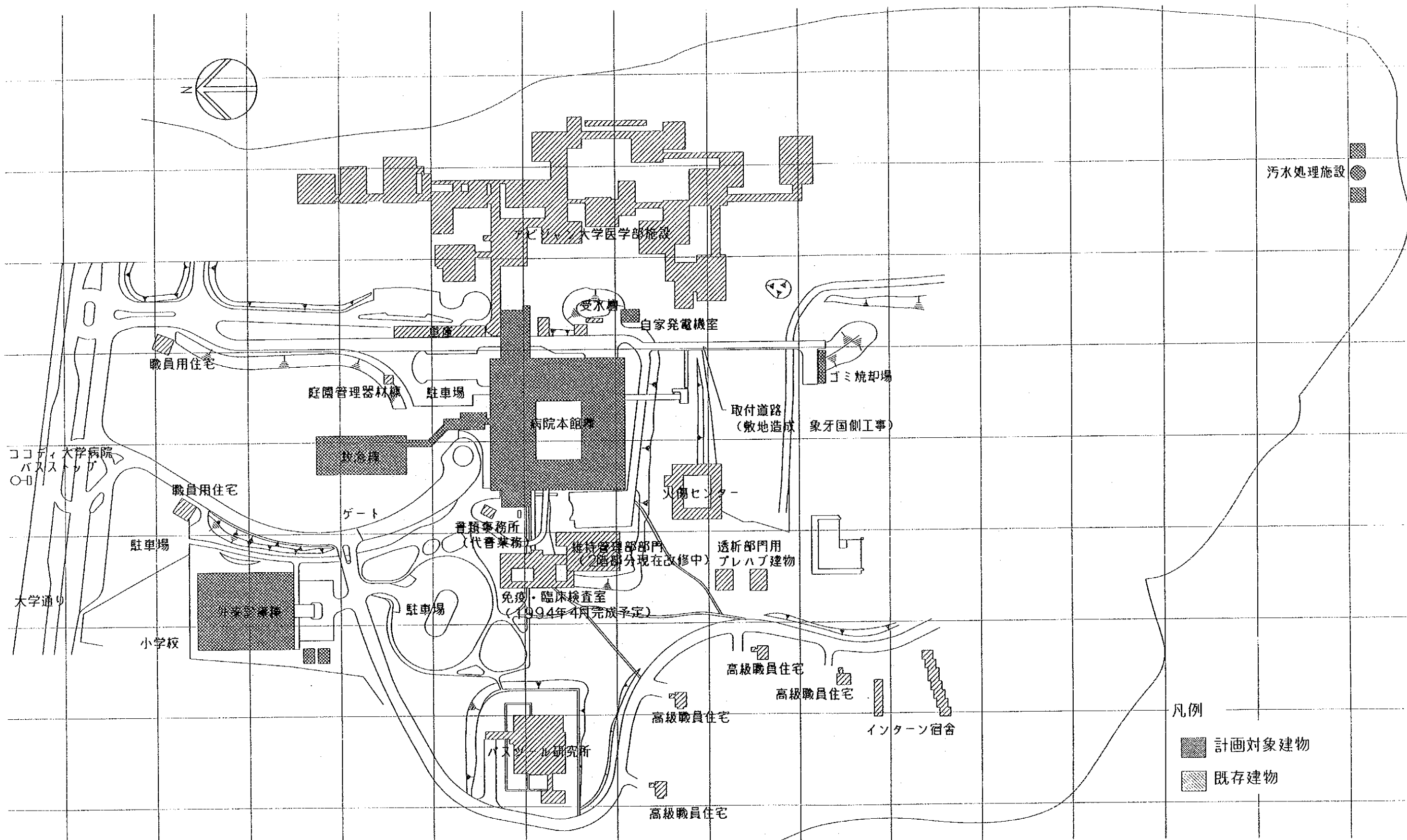


5 - 3 - 5 基本設計図

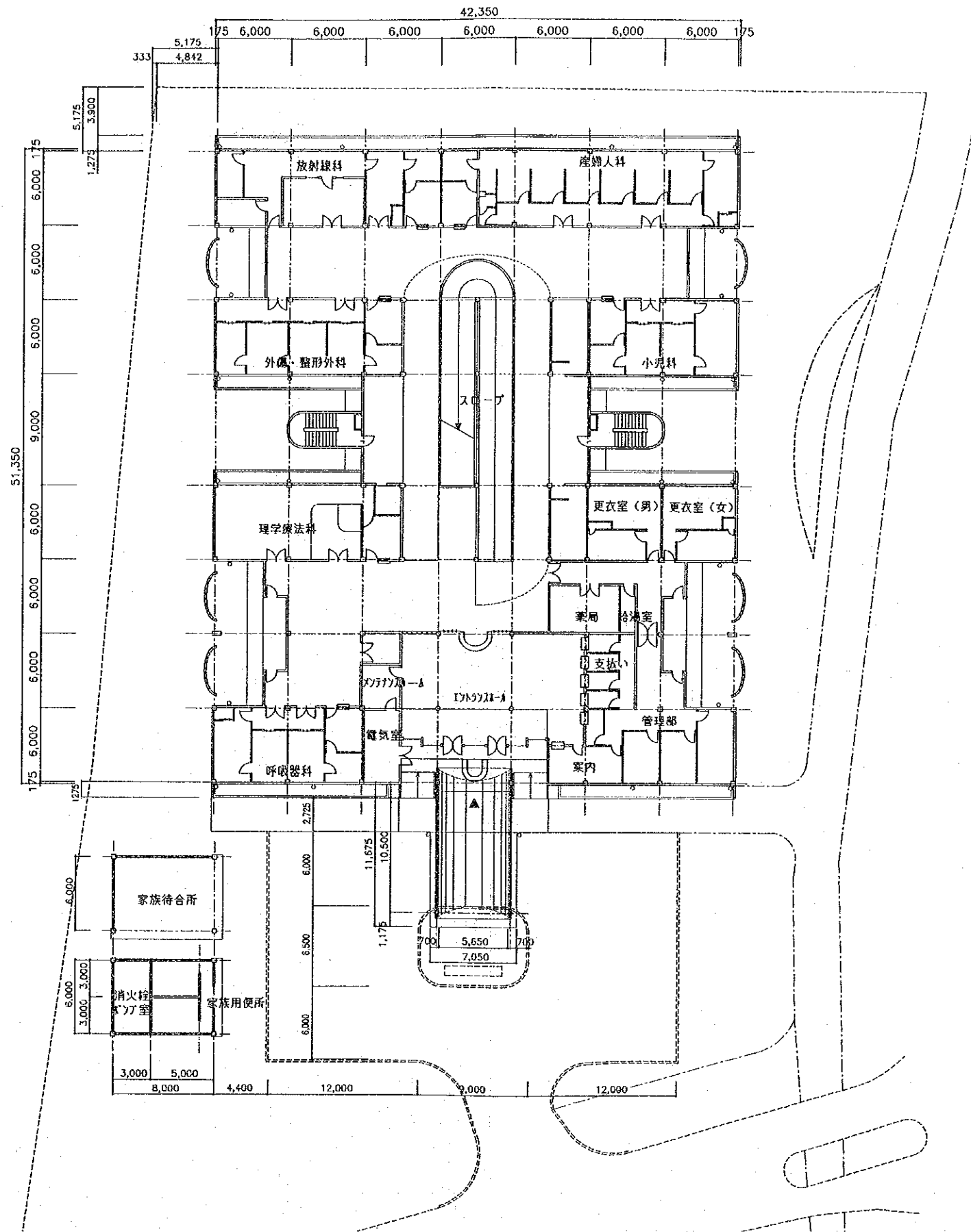
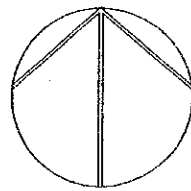
1) 全体配置図	
2) 外来診療棟	配置図
3) 外来診療棟	1階平面図
4) 外来診療棟	2階平面図
5) 外来診療棟	立面図・断面図
6) 病院本館棟	1階平面図
7) 病院本館棟	2階平面図
8) 病院本館棟	3階平面図
9) 病院本館棟	4, 5階平面図
10) 病院本館棟	6, 7階平面図
11) 病院本館棟	8, 9階平面図
12) 病院本館棟	10, 11階平面図
13) 病院本館棟	12, 13階平面図
14) 救急棟	1階平面図



凡例
 ■ 計画対象建物
 ▨ 既存建物

全体配置図
 縮尺 1:2,000

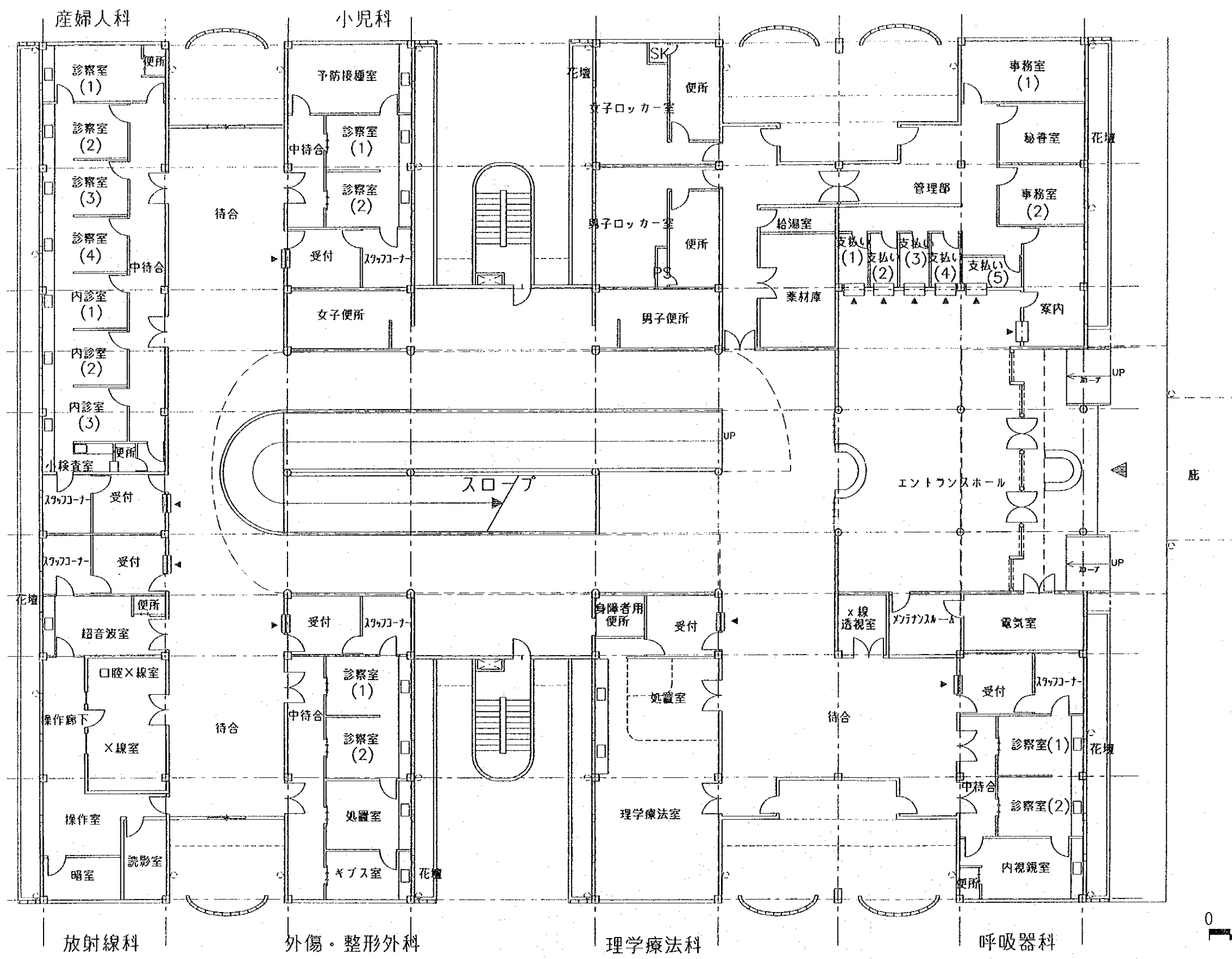
象牙海岸共和国 ココディ大学病院センター拡充計画



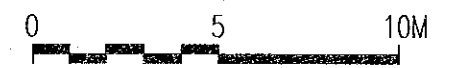
外来診療棟
配置図



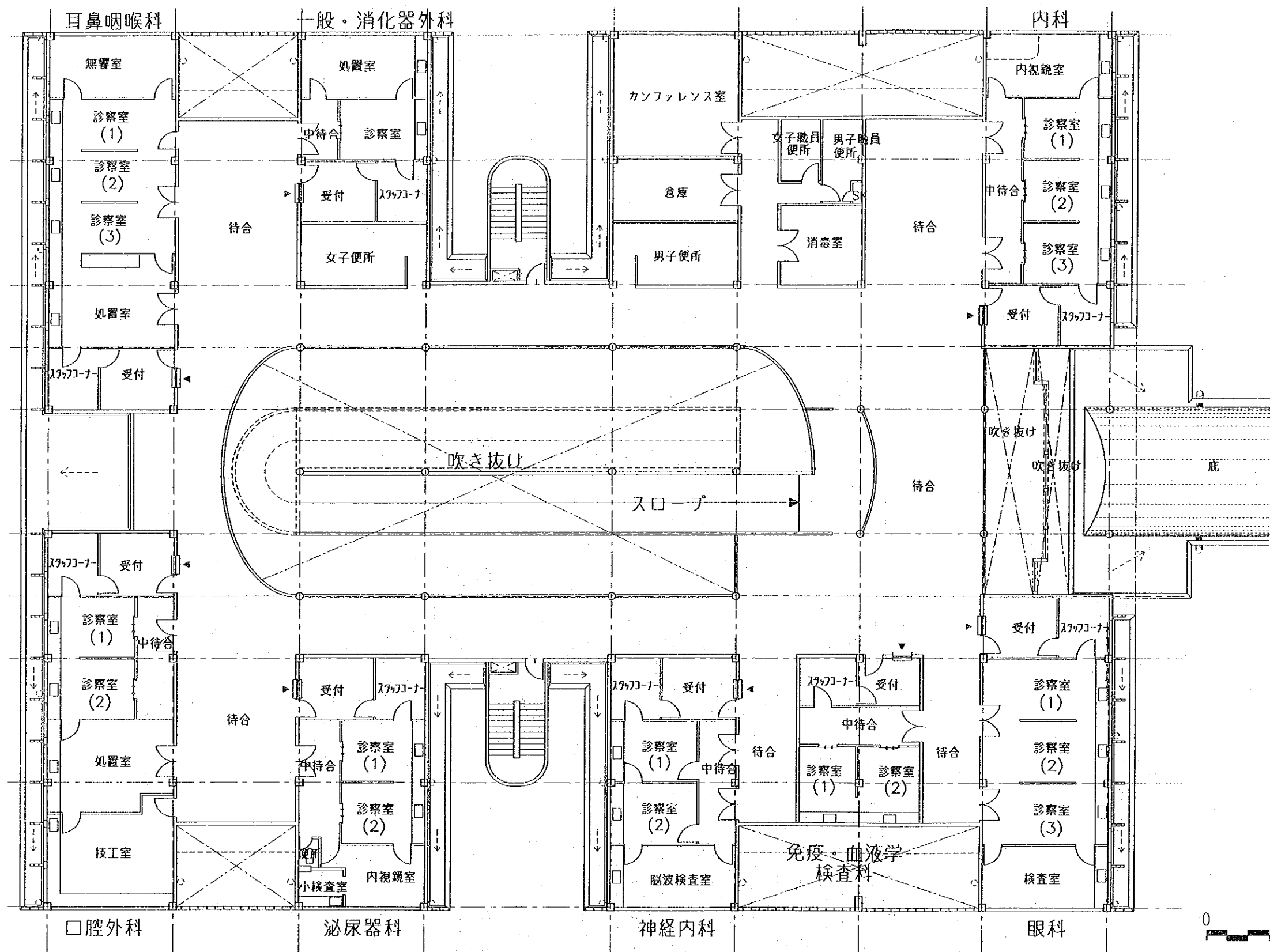
象牙海岸共和国 ココディ大学病院センター拡充計画



外来診療棟
1階平面図

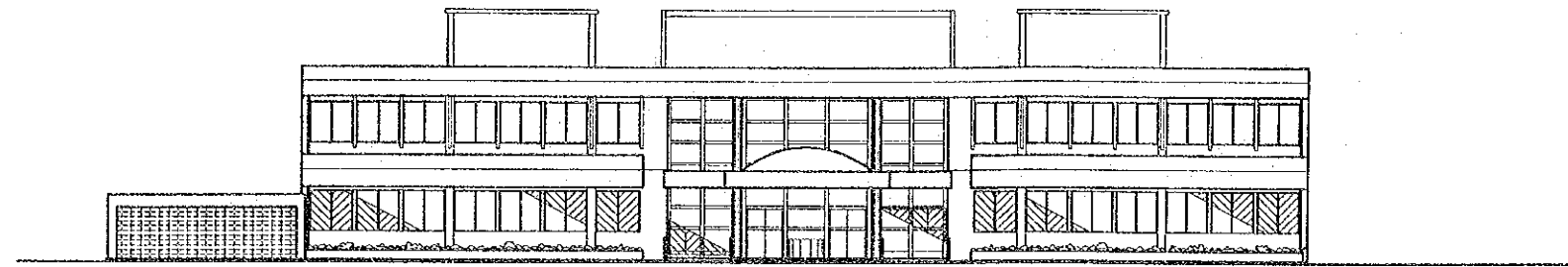


象牙海岸共和国 ココディ大学病院センター拡充計画

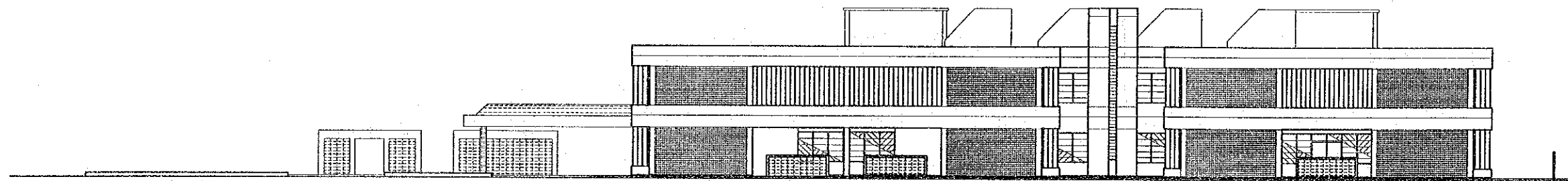


外来診療棟
2階平面図

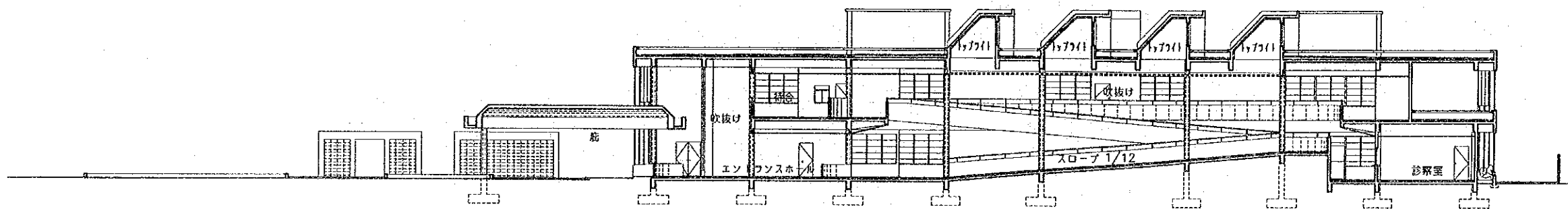
象牙海岸共和国 ココディ大学病院センター拡充計画



南立面図



東立面図

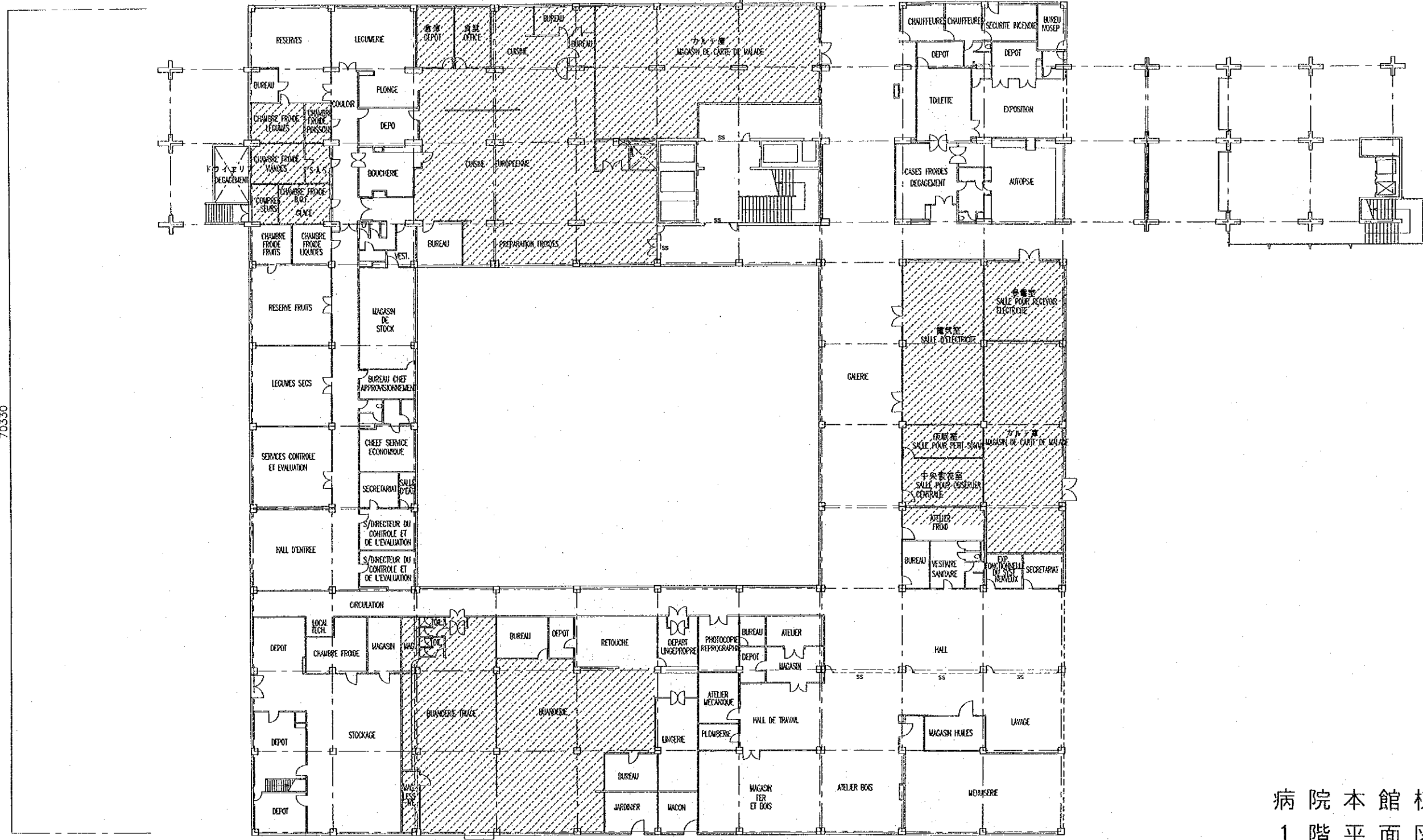


東断面図

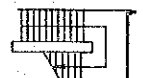

外来診療棟
立面図、断面図



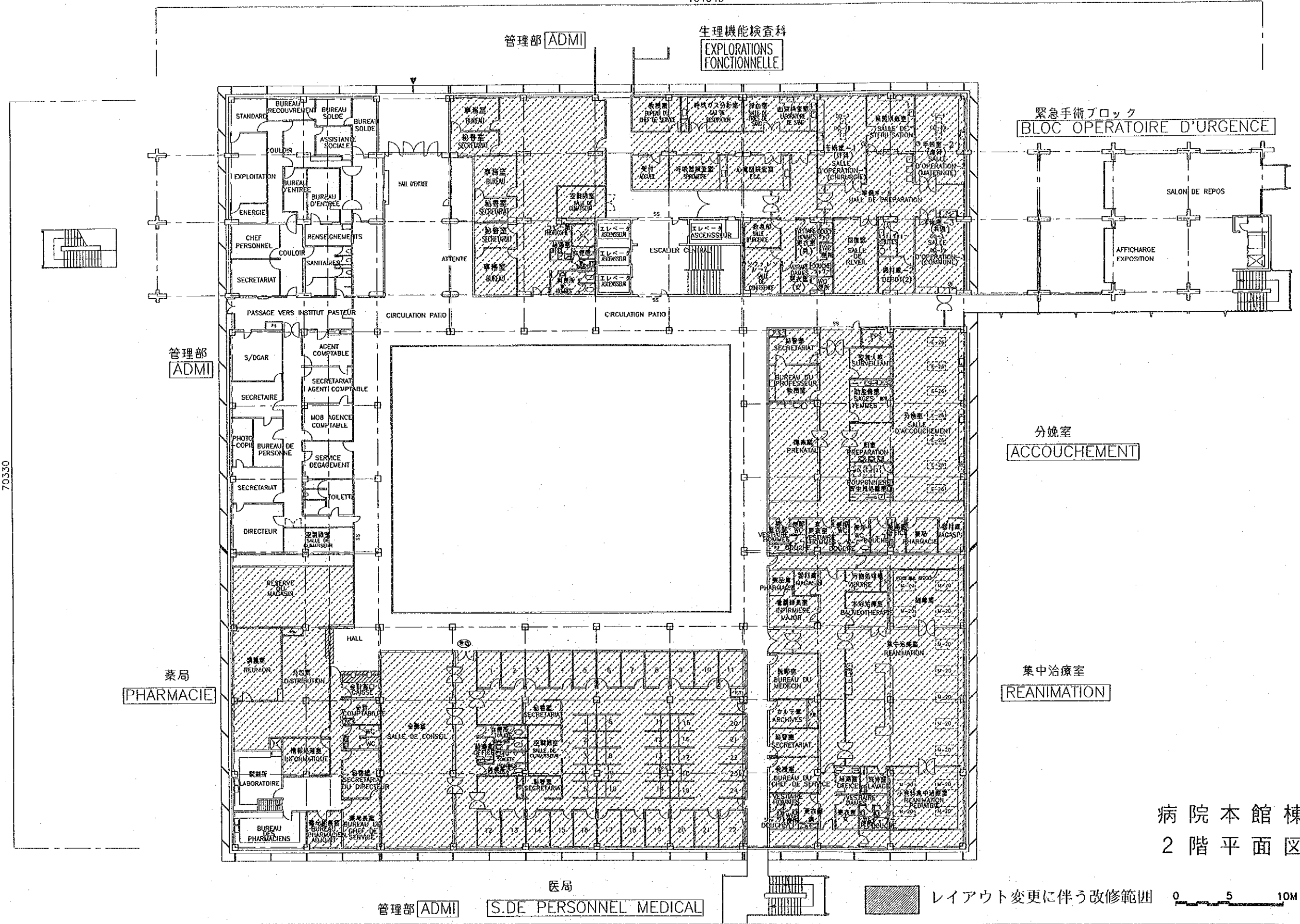
象牙海岸共和国 ココディ大学病院センター拡充計画



病院本館棟
1階平面図

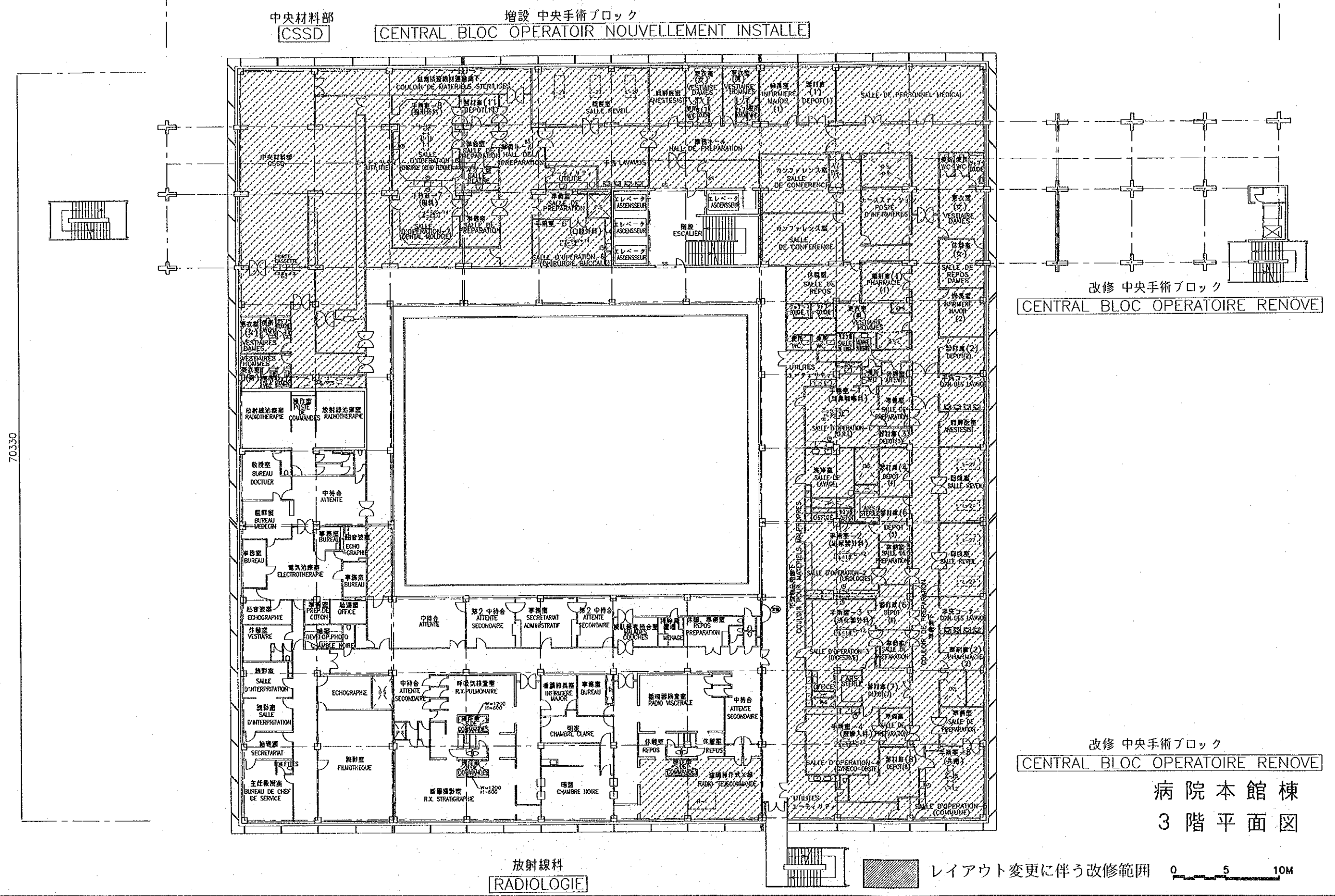


 レイアウト変更に伴う改修範囲 0 5 10M

象牙海岸共和国 ココディ大学病院センター拡充計画



病院本館棟
2階平面図

象牙海岸共和国 ココディ大学病院センター拡充計画



中央材料部
CSSD

増設 中央手術ブロック
CENTRAL BLOC OPERATOIRE NOUVELLEMENT INSTALLE

改修 中央手術ブロック
CENTRAL BLOC OPERATOIRE RENOVE

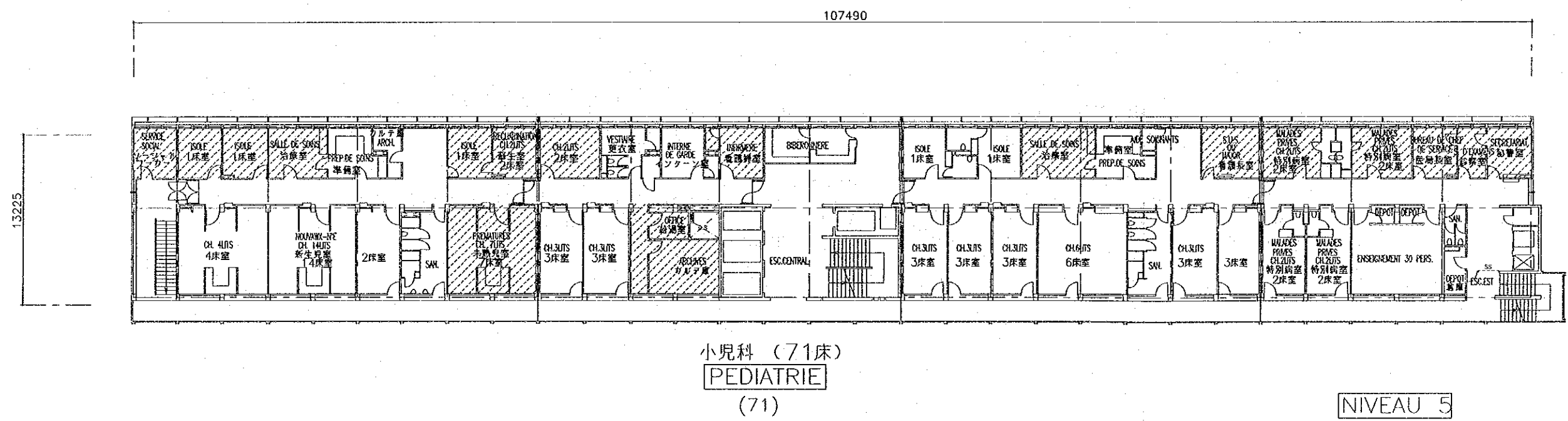
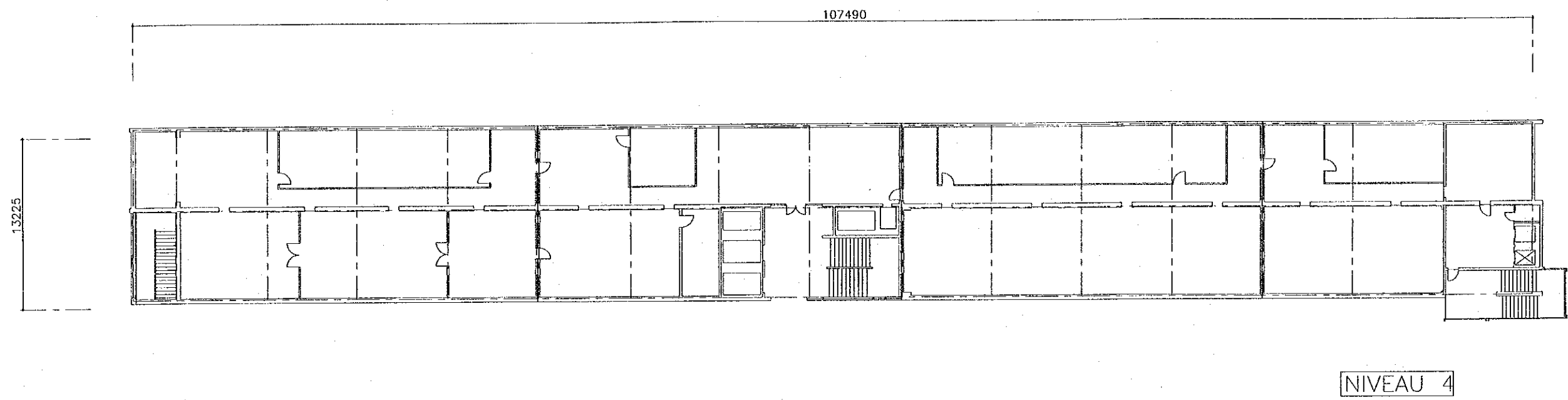
改修 中央手術ブロック
CENTRAL BLOC OPERATOIRE RENOVE

病院本館棟
3階平面図

放射線科
RADIOLOGIE

レイアウト変更に伴う改修範囲 0 5 10M

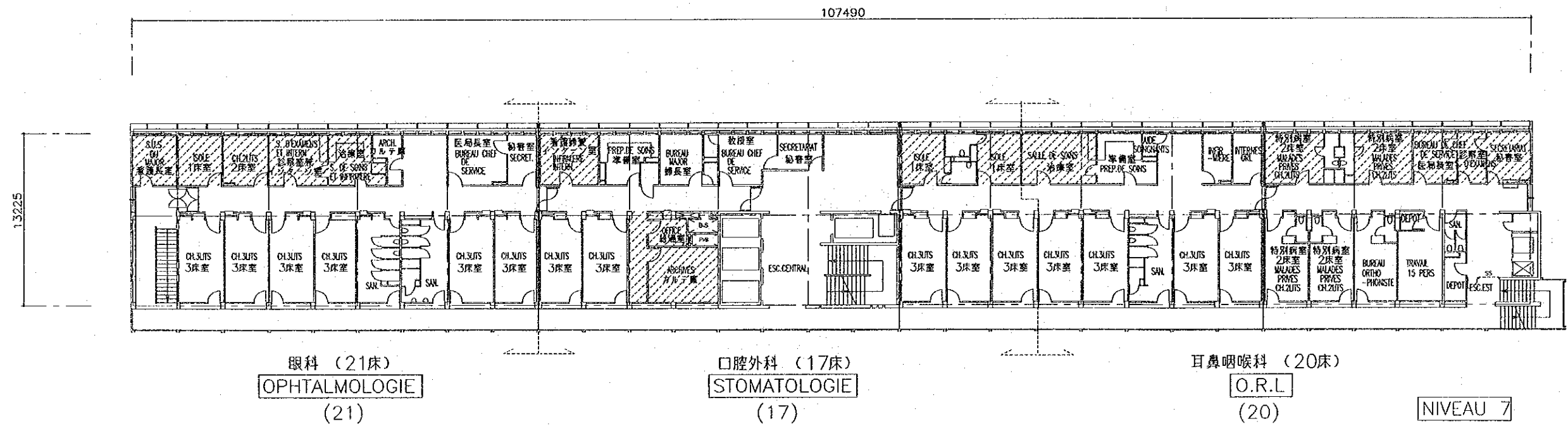
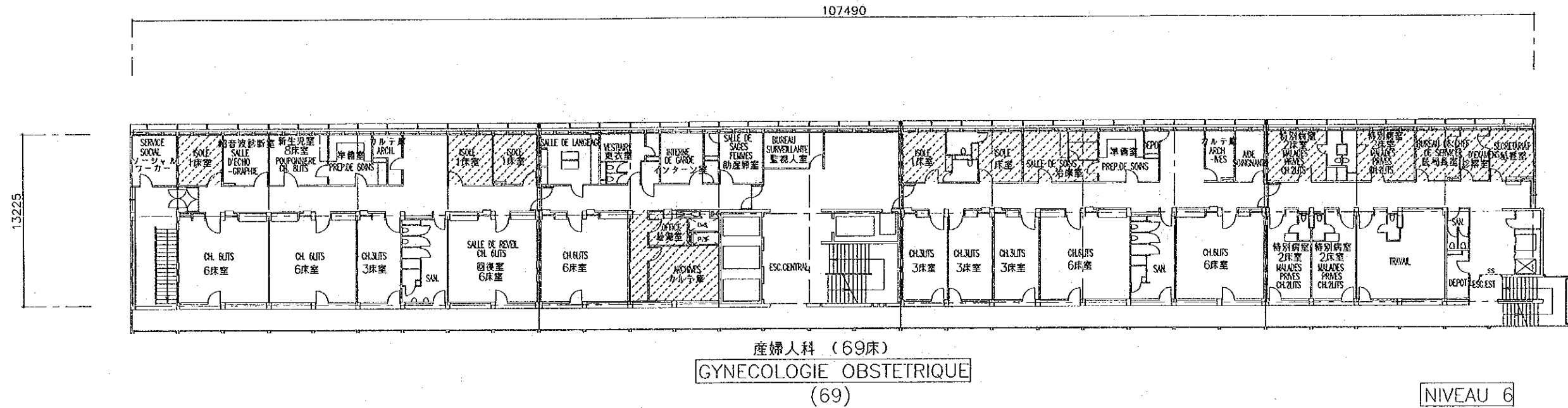
象牙海岸共和国 ココディ大学病院センター拡充計画



病院本館棟
4、5階平面図

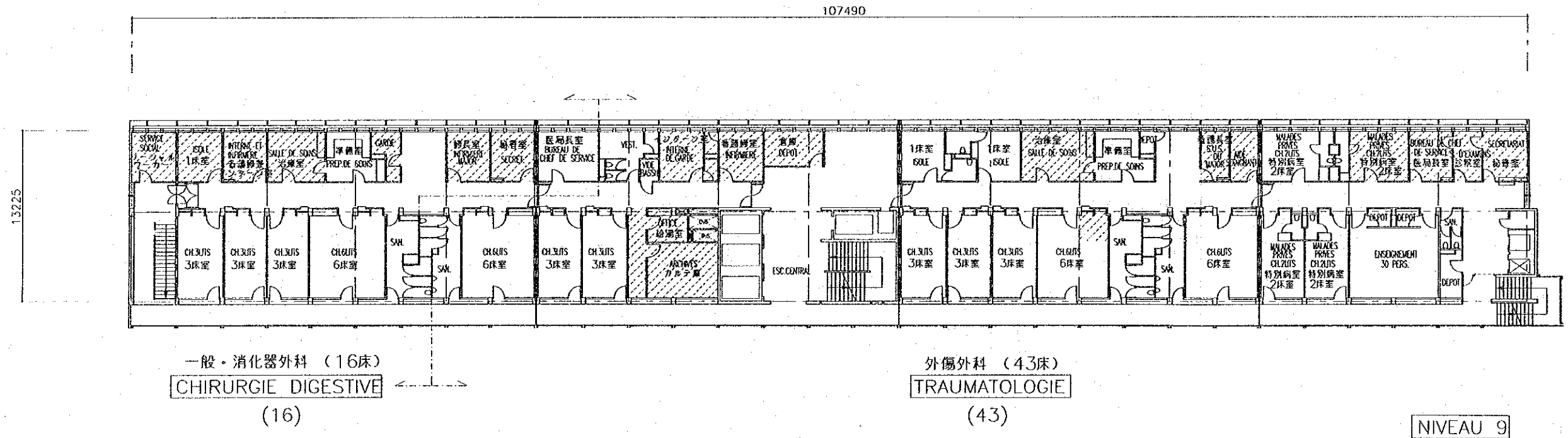
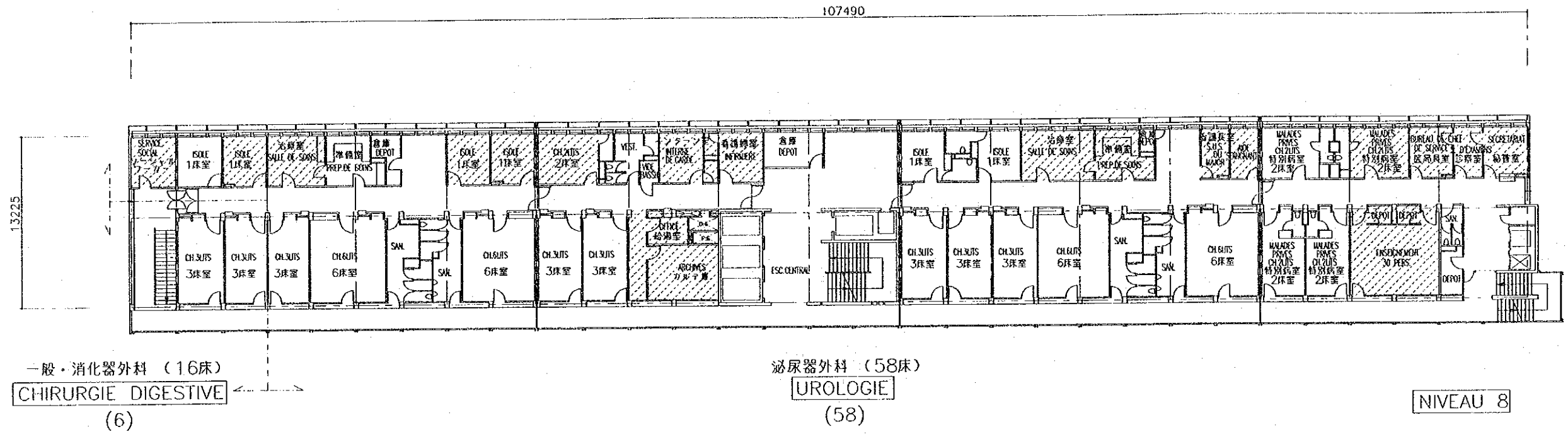
レイアウト変更に伴う改修範囲 0 5 10M

象牙海岸共和国 ココディ大学病院センター拡充計画



レイアウト変更に伴う改修範囲 0 5 10M

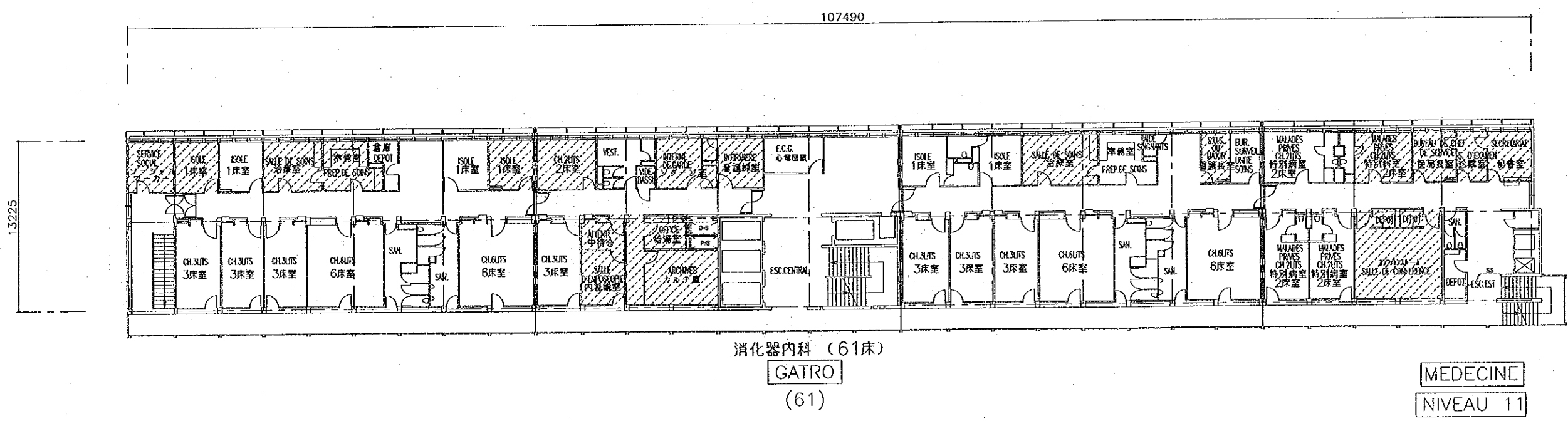
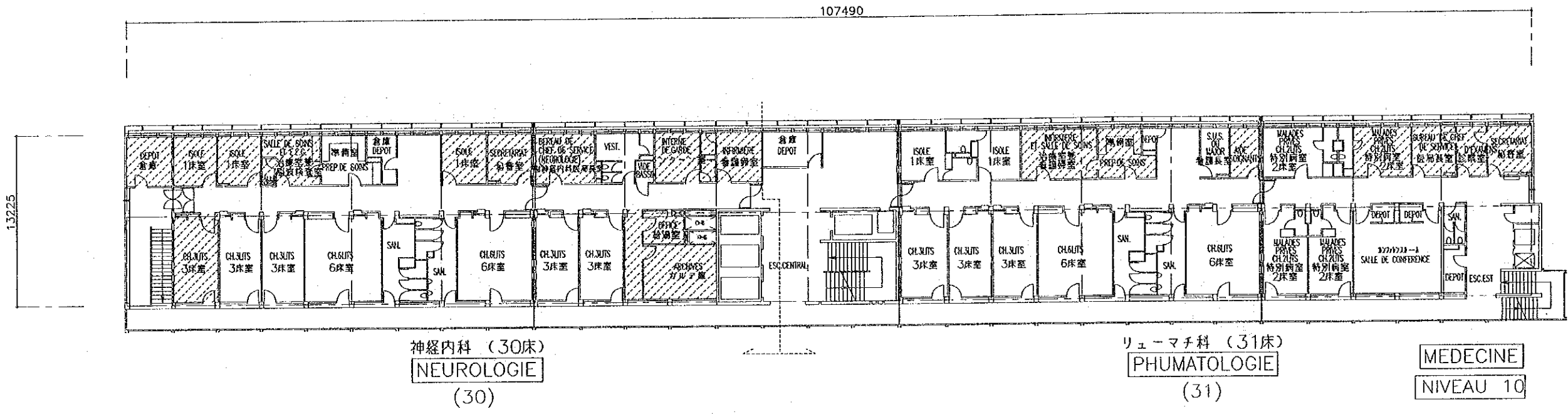
象牙海岸共和国 ココディ大学病院センター拡充計画



病院本館棟
8、9階平面図

レイアウト変更に伴う改修範囲 0 5 10M

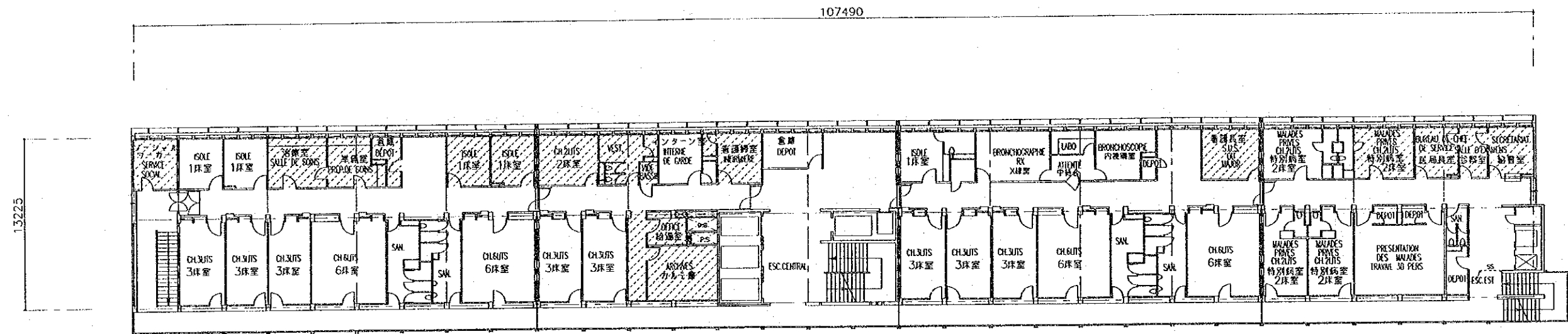
象牙海岸共和国 ココディ大学病院センター拡充計画



病院本館棟
10、11階平面図

レイアウト変更に伴う改修範囲 0 5 10M

象牙海岸共和国 ココディ大学病院センター拡充計画

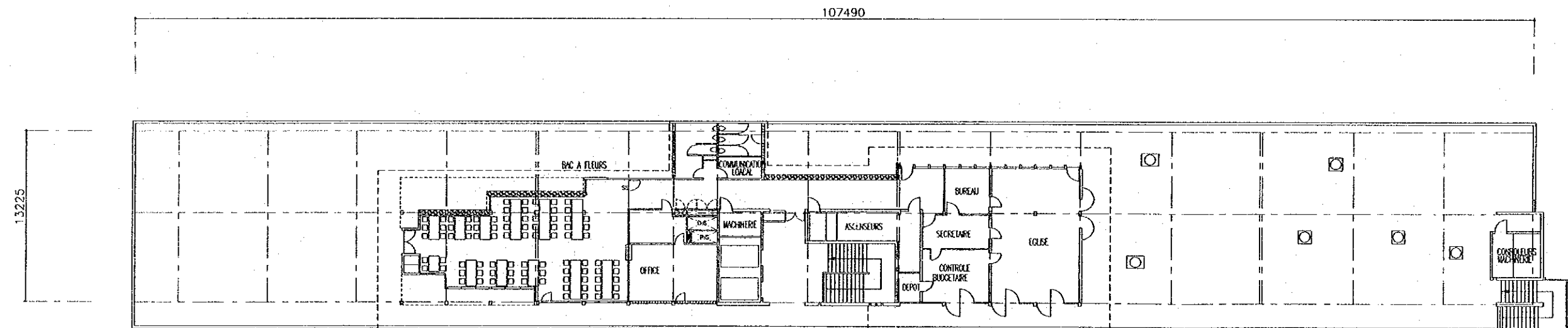


呼吸器科 (63床)

P.P.H.

(63)

NIVEAU 12

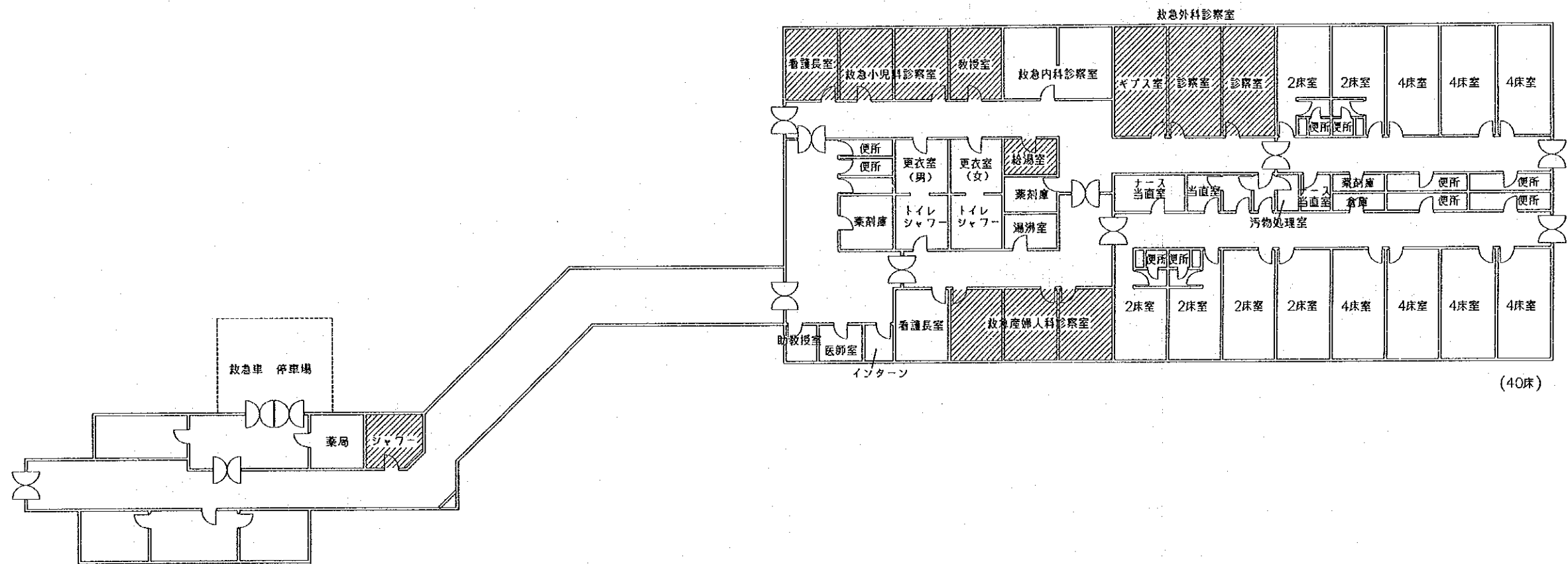


NIVEAU 13

病院本館棟
12、13階平面図

レイアウト変更に伴う改修範囲 0 5 10M

象牙海岸共和国 ココディ大学病院センター拡充計画



救急棟
1階平面図

レイアウト変更に伴う改修範囲
(象牙国側負担工事)



象牙海岸共和国 ココディ大学病院センター拡充計画

5 - 4 施工計画

5 - 4 - 1 施工方針

(1) 発注方式

本プロジェクトは、施設建設工事と医療機材の供給・配置工事からなる。下記で述べている工事特性を勘案すると施設建設工事と医療機材の供給・設置工事は一体として効率的にとり進める事が必要である。工事発注形態については十分な検討が必要である。

① 今回の工事は新築と改修工事があり、工事が大規模なものに加え、工事内容が非常に複雑である。

また、完成時期も新築の外來棟は1期、本館改修は2期となる。

② 病院の日常的な診療活動を止める事はできないので、医療機材の搬入、設置も工事進捗状況に併せて工事途中に行わざるをえない制約がある。

③ 現有医療機材の活用を前提としており、機材の調整、補修がある。

(2) 本計画を日本の無償資金協力より実施する場合、両国政府の工事負担範囲は下記の通りとするのが妥当である。

分担範囲と責任を次に述べる。

1) 日本側分担工事範囲

① コンサルタント業務

実施設計、入札、入札評価及び施工監理のコンサルタント業務

② 医療機材供与とココディ大学病院の一部施設の新設ならびに改修

・ 5章 5-3-2 / 5-3-3 に示す施設新設及び施設改修

・ 5章 5-3-4 に示す医療機材

2) 「象」国側負担工事範囲

① 新設建屋用地の整備

(新設建屋建設に伴う既存埋設給水管、排水管の盛替、樹木の伐採、除草、整地等)

② 仮設電力、給水の確保

③ 建設実施に必要な諸情報の提供

④ 外構工事

a. 植栽工事、ベンチ

⑤ 基幹工事

a. 給水 (市水引込み配管: 外來棟のみ)

b. 排水 (汚水処理設備以降の排水管路の整備)

- c. 電力（敷地外からの所定位置迄の引込み： 外来棟のみ）
- d. 電話（新回線引込みの場合： MDF 迄の局線引込み）

⑥ 家具及び備品

事務用家具及び備品、寝具、厨房用什器備品

⑦ 医療機材の設置及び各種ユーティリティの接続工事（本館棟並びに外来棟以外の施設）。

- a. 日本側より供与される医療機材の設置に必要なスペース・諸工事
- b. 日本側が設置する電力供給用分電盤（救急病棟）に対する接続工事

⑧ 日本側工事範囲の施設改修工事、新設建屋建設に伴うベッド、家具什器、医療機材等の仮設建屋、既存施設、新設建屋への移転

⑨ 建設資機材の免税通関及び税関手数料の免除

⑩ 日本人工事関係者の技術者の出入国に対する「象」国からの便宜供与

⑪ 本工事に関係する日本人の技術者の出入国に対する「象」国からの便宜供与

5 - 4 - 2 施工上の留意事項

本プロジェクトは現存稼動している総合病院の増改築工事であり、病院としての機能を生かしながら、新設、改修及びそれに伴う移転のサイクルを繰り返しつつ、所定の建設スケジュール内で全工程を完了しなければならない。

特に難しいのは本館棟の改修工事であり、仕上、建具、設備自体が相当に老朽化している為、これをどこまで改修すれば機能的に支障は無いのかの技術的問題がある一方、病棟の入院患者を外来棟工事完了まで受け入れる等、設備機能の保持・盛替や安全対策等に最新の注意をはらう必要がある。

通常の新築工事の場合は、各種インフラ設備、医療機器備品類は最終竣工の時点まで完成すれば良いが、今回は改修工事の都合上、工事の期間の途中で部分的な引渡や、部分竣工の病棟ブロックへの医療機材の設置等が必要となる。この様に改修工事では、建設工事、医療機器工事間の綿密なる事前打ち合わせ、協力体制が不可欠である。

今回工事対象の建屋も6施設に分散しているので、（外来棟、本館棟、救急棟、自家発電機棟、廃棄物置場、汚水処理設備）病院関係者の動線と工事関係の動線（材料搬出入・職人の作業）が交差する。このためかなり大掛かりな安全通路と仮設施設（仮囲い）の設置が必要となる。また、工事の進行により工事関係の動線は変化するので、これに伴い安全通路・仮設施設も変化させていく柔軟な仮設計画が要求される。

5 - 4 - 3 施工監理計画

(1) 実施設計

限られた期間内に発注図書をまとめるためには、交換公文締結後、速やかに実施設計が施行される必要がある。その際重要なことは、病院等、公衆の出入りする公共建築物は、承認された下記の検査機関の安全検査を受けることである。検査機関の報告書に基づいて、内務省に所属する国家安全委員会（構成メンバーは建設省、消防隊、専門家等）が最終承認を行うことになっている。

承認された3機関 VERITAS
 SCOTEC
 APEV (LBTPの親会社)

本案件については、ココディ大学病院センターの依頼を受けて、既にDcgtx（大規模工事建設局・大統領に直属して政府発注の大規模工事の設計・工事監理を担当している。）が改修計画を立案し、APEV（LBTP）の検査報告書を受領している。今回、無償援助を行う予定の改修工事については、この検査報告書に指摘された事項を盛り込んで、あらためて防災対策計画書を作成し、国家安全委員長の賛同の手紙を受領したものである。従って、実施設計にあたっては、Dcgtx及び消防隊と詳細をつめた後で、発注図書をまとめることになるが、防災対策は既に合意されているので、速やかな作業が可能となる。

仮設用地、水道、電力、電話等の工事について、関係部署と具体的打ち合わせを実施するのは、この実施設計段階である。その際、「象」国負担工事の内容・区分等について十分な討議・検討を行ない、発注図書をまとめることとする。

(2) 監理計画

本館棟の改修工事は、改修項目が多く、内容的にも高度な技術と細心の注意を要するものである。入院患者を一部収容した状態での工事は、安全上危険をとめない、仮設工事等安全対策に万全を期してもなお、不安が残る状況であったが、ドラフト説明調査に於いて、病院側の同意を得て本館棟の改修工事に際しては、その機能を全面的に停止することとした。これで安全と工期に関する確実性が格段に増すこととなった。

本館棟の改修工事は、原状が図面上不確実な箇所が多く、天井や壁の解体の状況を観察の上、判断すべきところもあるので、工事監理にあたって、常駐監理者（建築担当）1名の他に必要期間・構造・電気・機械等の技術者を派遣することを検討する。

日本国内での支援体制として、それぞれ担当の技術者が施工図や工法のチェック、製品検査等を実施する。

(3) 施工管理計画

実施スケジュール作成にあたっては、通関業務手続き及び輸送方法等を検討する。ココディ大学病院の建設に必要な建設資機材の調達方法の検討、第3国調達の可能性、通関業務手続きおよび輸送方法等を検討する。

乾期である12月～3月に防水の改修工事を行う必要がある。

電気、電話、上水道の引込みおよび下水道への接続等の工事は、保健省と十分に協議、確認のうえ、適切な時期に工事を行うこととする。

工事期間中は、工程面や技術面で現場の進捗を合わせ、「象」国の担当者と十分な意見交換を行ない、工事を進めることが必要であり、また日本国内に十分な支援体制をつくることが重要である。

5 - 4 - 4 資機材調達計画

(1) 建設資材

建設資材の調達は、現地調達を基本方針とする。現場調達が困難なもの及び本プロジェクトの品質、レベルを確保するために必要なものは日本からの調達とする。

表5-1に資機材調達区分表を示す。

表5-6 資機材調達区分表

項 目	日 本	現 地	備 考
(建築資材)			
1. 骨材(碎石、砂)		◎	
2. セメント		◎	
3. 鉄 筋		◎	
4. コンクリートブロック		◎	
5. 防水剤		●	
6. 合板・木材		◎	
7. 床、壁用タイル		◎	
8. 木製建具		◎	
9. 金属製建具		●	特殊建具(鉛入)は現地にはない
10. 建具金物(マスターキシステム)		●	
11. 塗 料		◎	
12. 作業台・流し台		◎	
13. 木製棚・カッパ		◎	
14. フェンス・ゲート		◎	
15. コンクリート舗石		◎	
16. 型枠材		◎	
17. 工事用機械		●	
(設備資材)			
1. PVC電線管		◎	
2. 電線・ケーブル類		●	
3. 盤 類		●	
4. 照明器具		●	
5. 変圧器		●	
6. ディーゼル発電機		●	
7. 配線器具		●	
8. 弱電機器	○		日本製品の方が高品質で定評がある
9. PVC配管(衛生用)		◎	
10. 銅 管		●	
11. 衛生陶器類		●	
12. ポンプ類		●	
13. 焼却炉		◎	同 上
14. 空冷パッケージエアコン、ウィンドクーラー		●	同 上
15. ファン類		●	同 上

◎: 「象」国産又はフランス等欧州からの輸入品
 ●: フランス等欧州からの輸入品

(2) 医療機材

医療機材の調達に関しては、「基本設計方針」でのべたように、第3国より調達することが維持管理面等で総合的に有利と判断される機材については、日本品と限定せず、積極的にこれを検討する。特に、本案件においては、地理的、文化的、さらに医療機材に対する医療従事者の習熟度という観点からみて、フランスを始めとするヨーロッパ製品が日本製より有利な点もある。

具体的には以下のような利点が上げられる。

- 商都アビジャンにヨーロッパ系の医療機器代理店が3店あるため、機器に関して技術的な打ち合わせが可能である。
- 日本からは少なくとも2ヶ月以上の納期を要するが、ヨーロッパからは通常2週間前後で部品等を調達できる。
- 輸送等に要する調達経費が日本から送るより割安である。
- フランス語の取扱説明書が完備している。

一般に、医療機材案件において、最も厄介な問題は機器の保守と消耗品の定期的な補給に関してであり、これは時にプロジェクトの成否に拘わる重要な問題でもある。

保守サービス網の確立していない「象」国の医療事情を考えると、将来に涉って機材が円滑に運用されるためには、先ず使用者にとって最も少ない経費で、短時間で確実に維持管理可能な体制にしておくことが不可欠と判断される。

以下に第3国より調達した方が有利とみられる機器を上げる。これらの機器は何れも定期的な保守点検、または消耗品や部品の交換を要するものである。

表5-7 第3国調達計画機材

医 療 機 材	
1. 放射線機材	<ul style="list-style-type: none">• 遠隔操作式X線装置• 単純撮影X線装置• 超音波診断装置等
2. 手術部機材	<ul style="list-style-type: none">• 麻酔器• 人工呼吸器等
3. 中央材料滅菌	<ul style="list-style-type: none">• 高圧上記滅菌器
4. 臨床検査	<ul style="list-style-type: none">• 血液ガス分析装置• 自動分析装置• 電解質分析装置等

(3) 資材輸送ルート

1) 医療機材

調達後の実務的な機材輸送においては、日本製品は原則的にコンテナ積みによる海上輸送とし、第3国製品は木枠梱包またはコンテナによる海上あるいは空輸とする。

2) 建設資材

「象」国内の主要貿易港は、大西洋側のアビジャン港である。日本から「象」国への海上輸送される資材は、大西洋側のアビジャン港に荷揚げされ、ココディ大学病院サイトに運ばれる。

医療機材の輸送については、基本的にコンテナ積みによる海上輸送となる。

5 - 4 - 5 実施工程

本計画は本館棟改修工事（約28,120㎡）、附属建屋2棟（自家発電機棟、廃棄物置場）を含む外来棟新設工事（約3,432㎡）があり大規模な事、また必要な医療サービスを生かしながら工事を行う事等の条件より、全体工事期間を検討すると26ヶ月間を要し、工事工程は2期に分けられる。

第1期は交換公文の締結、コンサルタント契約（E/N）、実施設計等を経て入札まで5ヶ月、工事が着工され完工までには12ヶ月間を要する。

工事内容： ・ 施 設

— 外 来 棟 新 設

— 基 幹 設 備（受変電設備、給水設備、汚水処理設備、自家発電設備、廃棄物処理）

・ 医療機材

— 外 来 棟

— 火傷センター

— 臨床検査棟

第2期以降は第1期同様な手続きが取られ、工事期間は17ヶ月を要する。

工事内容： ・ 施 設

— 本館棟改修

・ 医療機材

— 本 館 棟

表 5-8 実 施 工 程

全体工程		建設 (工期 26ヶ月)																																									
月数	設計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34								
I 期	基本設計	-7	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
	設計	-7	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
II 期	基本設計	-15	-14	-13	-12	-11	-10	-9	-8	-7	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	設計	-15	-14	-13	-12	-11	-10	-9	-8	-7	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
I 期	A: 外 来 棟 (3,500㎡)	<p>基本設計: 関議, 三ノ丸薬, 業者契約</p> <p>設計: 関議, 三ノ丸薬, 業者契約</p> <p>製作: 製作</p> <p>搬付工事: 搬付工事</p> <p>製作: 製作</p> <p>輸送: 輸送</p> <p>据付: 据付</p>																																									
II 期	D: 本 館 棟 (28,000㎡)	<p>製作: 製作</p> <p>4F/13F 壁止</p> <p>東館70t (5F~13F)</p> <p>1F~12=17</p> <p>(乾期)</p> <p>西館70t (5F~12F)</p> <p>2F/3F 中央診療70t</p> <p>輸送: 輸送</p> <p>ダムウェーター</p> <p>ELV 3基</p> <p>ELV 4基</p>																																									
I 期	E: 医 療 機 材	<p>製作: 製作</p> <p>輸送: 輸送</p> <p>据付: 据付</p>																																									
II 期	E: 医 療 機 材	<p>製作: 製作</p> <p>輸送: 輸送</p> <p>据付: 据付</p>																																									
入院患者受入れ		100% (9ヶ月)												0% (17ヶ月)																													

5-4-6 概算事業費

本計画を日本の資金協力により実施する場合に必用となる事業費総額は約 38.09億円となり、先に述べた日本国と「象」国との負担区分に基づく双方の経費内訳は、下記に示す積算条件によれば次の通りと見積られる。

1) 日本側負担経費

事業費区分	金額
(1) 建設費	26.71 億円
(2) 機材費	7.58 億円
(3) 設計・監理費	3.57 億円
合計	37.86 億円

2) 「象」国側負担経費

区 分	金額
(1) 外来棟建設予定地整備工事 <ul style="list-style-type: none"> ・既存埋設配管（給水・排水）の盛替へ ・樹木の伐採、除草、整地 ・給水配管の引込み（予定地内所定位置まで） ・電力引込み（予定地内所定位置まで） ・電話新回線の引込み（MDFまで） ・外構工事（植栽、ベンチ等） 	38,180,000 CFA
(2) 救急病棟改修工事	29,410,000 CFA
(3) インフラ整備費 <ul style="list-style-type: none"> ・工事用仮設電力・給水の確保 ・排水管整備（本館最終柵～污水处理設備の間とそれ以降） ・本館棟及び外来棟以外の施設で日本側より供与される医療機材の設置に必要な諸工事 ・日本側が設置する電力供給分電盤（救急病棟に対する接続工事）。 	36,580,000 CFA
(4) 移転諸費用 <ul style="list-style-type: none"> ・日本側工事に伴う家具・什器・備品医療機材等の移転 ・日本側工事に伴う家具・備品の整備 	23,970,000 CFA
合計	128,140,000 (23,000,000円)

3) 積算条件

- (1) 積算時点 平成6年5月
- (2) 為替交換レート 1 US \$ = 107.74 円
1 CFA = 0.18 円
- (3) 施工期間 詳細設計、工事の期間は、実施工程に示したとおり。
- (4) その他 本計画は日本国政府の無償資金協力の制度に従い、実施されるものとする。

第6章 事業の効果と結論

6-1 事業の効果

6-2 結 論

第6章 事業の効果と結論

6-1 事業の効果

現状と問題点	本計画での対策	計画の効果・改善程度
<p>1. 施設の老朽化と手狭さ</p> <p>本大学病院センターの本館棟は、建築後24年を経っており施設の老朽化が著しく、また外来部、中央診療部の手狭さから診療活動に支障をきたしている。</p> <p>特に、外来部の手狭さから病棟部にて一部外来患者を診察しており、この結果患者、医療従事者の動線が複雑化し、効率的診療活動、管理上の安全・保安体制に支障をきたしている。</p>	<p>本館棟の施設の改修及び外来棟の新築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央診療部手術・集中治療室・救急部・放射線部・分娩部等の改修 ・病棟部天井・水回り・建具・屋上の補修等 ・外来棟の新設 <p>外来部および病棟部で行われている外来診療部の移設を行う。</p>	<p>施設の機能が回復され本病院センターが引き続きその役割を果たすことが可能となる。</p> <p>中央診療部・病棟部の機能の回復が行われ、診療活動の改善と向上が期待される。</p> <p>外来診療部の独立により、診療活動の効率化が図られ、増大する医療需要に対応でき、さらに病院の安全・保安面で管理が容易になる。</p>
<p>2. 設備の老朽化</p> <p>設備の老朽化により病院機能の低下、停止状態に陥っており衛生面、安全面において患者、見舞い人、医療従事者が不衛生・危険な状態にある。</p>	<p>設備の改善及び更新</p> <p>産業廃棄物処理を含む基幹設備、空調、換気、給排水設備、衛生、電気設備・昇降設備、医療ガス、防災設備等の改善・更新</p>	<p>病院としての機能回復が図られ、衛生的で安全かつ信頼性のある診療活動が可能となり医療サービスの向上が図られる。</p> <p>適切な廃棄物処理が可能となり、周辺環境の改善に寄与する。</p>
<p>3. 機材の老朽化</p> <p>現在の機材の殆どが設立当時のもので故障、老朽化が著しい。さらに、基本的機材の不足等により第3次医療施設としての医療サービスの提供が十分に行えない状態にある。</p>	<p>機材の更新・補充・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・故障、老朽化した機材の更新を行う。 ・現有機材で数量の不足している機材を補充する。 ・診療上必要な基本的機材を整備する。 	<p>機材の故障、老朽化のため発揮できなかった本病院センターとしての本来の機能が回復される。</p> <p>第3次医療設備としての機材の整備により、医療教育の充実が図れる。</p> <p>増大する患者に対応できるようになる。</p>

本計画を実施することにより、上記の効果と改善が期待でき、総合的には以下の効果が期待できる。

- ① 第3次医療レベルの医療サービスが提供できる病院となり、直接的にはアビジャン周辺地域住民（西暦2000年の時点で約300万人）の保健医療サービスの向上と、間接的には「象」国の重要政策である、第1次、2次、3次医療分野の均衡・統合・発展と保健医療体制の確立に貢献する事が期待できる。

- ② ココディ大学病院センター（教育病院）の施設・設備・医療機材が整備される事により、直接的には大学病院としての医学教育環境が向上する。間接的には、「象」国の医学教育の改善並びに当センターが西アフリカ仏語圏諸国の研修医受入れを行っている事からも、研修医派遣国の保健医療サービスの向上に貢献する事が期待出来る。
- ③ 外来棟の新設、本館棟の改修を行なう事により、直接的には本病院の外来診療・入院診療収入の増加が見込まれ、病院財政の改善に寄与する。間接的には保健省の重要政策である第3次医療機関の独立採算制の促進に貢献する事が期待出来る。

6 - 2 結 論

本計画の実施により、前述のように多大な効果が期待されると同時に本計画が広く象牙海岸共和国アビジャン市の住民のみならず、本病院センターが同国の医療サービスの中で受け持つ第3次医療施設と教育病院という性格から広く「象」国の国民の医療環境の向上に寄与するものである。また、他の西アフリカ仏語圏諸国から、研修医受入れを行っており、研修レベルの向上と研修医派遣国の保健医療サービスへの貢献についても期待出来る事からも、我が国の援助で本計画を実施することは妥当であると判断される。さらに、本計画の運営・管理に関しては現在も活動している病院であるため、人員面においては十分確保ができてい

る。

今回外来棟の新設により、外来診療徴収の一元化が可能となる様、施設面での整備が為され、病院の収入の改善が期待出来る。しかしながら、保健医療計画の中で第3次医療機関の独立採算制の促進は大きな課題とされている事からも、今後病院運営を行っていく上で、以下の改善を行う事が必要である。

① 診療単価

病院の最大の収入源である診療単価を、物価上昇分と国庫補助金の減額分に見合う分について見直しを行っていくこと。

② 診療費徴収率

診療費徴収率は、収入源である診療費に直接関連しているため、可能な限り引き上げること。又、開院後は医療機材も更新される事から、診療・治療件数及び検査件数も上がってくる事が想定され、確実な診療費の徴収を行うこと。

③ 人件費

人件費は、全費用の中で大きな割合を占めている。従って、人件費の削減は支出額をおさえ、健全運営に通じる事となる。病院の組織改革や医療従事者数、職員数等の見直しを行ない、削減の可能性を検討すること。

④ 施設、機材

日本の援助による施設、機材の維持管理を着実にを行うことにより、それぞれの耐用年数を延ばす必要がある。この為には、確実なメンテナンスを行うこと。

以上のとおり、計画実施後の病院運営は、単に管理部門の強化だけではその目標を達成する事は難しく、医師、看護婦をはじめとする医療従事及び維持管理技術者等の努力も必要である。

本病院センターが独立採算制を確立していくことは、本計画の大きな目的である象牙海岸共和国の医療分野で、第一次、二次、三次分野の均衡的発展に大きく寄与することからも重要なことである。

また、本大学病院センターは現在も機能し活動を行っている病院であるため、その実施に関しては計画を期分けし、病院機能の低下を最低限に抑えながら実施する必要がある。

さらに計画の効率的実施と最良の効果をあげるために、「象」国側、病院側は次の点に留意することが必要である。

- (1) 供与機材の通関から据付迄の安全確保措置及びこれに伴う諸手続きの迅速な処理
- (2) 供与施設、機材を活用するための運営費、維持管理費の確保
- (3) 供与施設、機材の維持管理体制の確立
- (4) 供与機材に対する習熟努力

< 資 料 編 >

1. 象牙海岸共和国カントリーデータ
2. 基本設計調査および報告書説明調査
3. 運営・管理計画
4. 防 災 対 策
5. 機材計画の検討
6. 本館棟現状図

< 資 料 編 >

1. 象牙海岸共和国カントリーデータ	A 1 - 1
2. 基本設計調査および報告書説明調査	A 2 - 1
(1) 基本設計調査	
1) ミ ニ ッ ツ (写)	A 2 - 1
2) 調査日程表	A 2 - 23
3) 団 員 名 簿	A 2 - 24
(2) 報告書説明調査	
1) ミ ニ ッ ツ (写)	A 2 - 25
2) 調 査 日 程 表	A 2 - 67
3) 団 員 名 簿	A 2 - 68
(3) 面談者リスト	A 2 - 69
3. 運営・管理計画	A 3 - 1
(1) 試 算 表	A 3 - 1
(2) 収益算出根拠	A 3 - 8
(3) 維持管理費算出根拠	A 3 - 9
(4) 「象」国側よりの運営・管理計画書	A 3 - 15
4. 防 災 対 策	A 4 - 1
(1) 防 災 計 画 書 (写)	A 4 - 1
(2) 国家安全委員会レター (写)	A 4 - 35
5. 機材計画の検討	A 5 - 1
6. 本館棟現状図	A 6 - 1

1. 象牙海岸共和国カントリーデータ

コートジボアール

我が国におけるODAの実績		(資金協力は約束額ベース、単位：億円)			
年度 項目	1989	1990	1991	1992	
技術協力	2,043.46	2,382.47	2,515.30	2,699.97	
無償資金協力	2,146.74	1,989.63	2,050.70	2,194.95	
有償資金協力	5,161.42	5,676.39	7,364.47	5,852.05	
総額	9,351.62	10,048.49	11,930.47	10,746.97	

我が国におけるODAの実績		(資金協力は約束額ベース、単位：億円)			
年度 項目	1989	1990	1991	1992	
技術協力	1.67	2.88	4.52	3.49	
無償資金協力	20.24	17.11	23.14	8.50	
有償資金協力	3.88	35.12	20.36	—	
総額	25.78	55.12	48.02	12.00	

ODA諸国の経済協力実績(1991暦年)		(支出純額、単位：百万円)				
	贈与 (1)		有償資金協力 (2)	政府開発援助 (ODA) (1)+(2)=(3)	その他政府 資金及び 民間資金 (4)	経済協力 総額 (3)+(4)
	技術協力					
二国間援助 (主要供与国)	1. フランス			434.6		632.7
	2. 日本			309.7		434.6
	3. ドイツ			48.0		
	4. アメリカ			28.2		
多国間援助 (主要援助機関)	1.			198.0		198.6
	2.					
その他				296.4	-361.8	-65.4
合計				929.0	-361.8	567.2

援助受入窓口機関	
技 協	関係各省庁機関→外務省
無 償	— " —
協力隊	— " —

一般指標			
国名	コートジボアール共和国	面積	322 千km ²
政体	共和制	人口	12,331 千人 (1991年)
元首	コナン・ベディユ大統領	首都	ヤムスクロ
独立年月日	1960年8月7日	主要都市名	アビジャン、ブワケ、アボ
人種(部族)構成	セワ族、ムレ族 他	経済活動可能人口	3,795 千人 (1988年)
言語・公用語	フランス語	教育制度	義務教育6~11才 (6年)
宗教	伝統的宗教(アニミズム) イスラム教、キリスト教	初等教育就学率	70 % (1990年)
国連加盟	1960年 9月	識字率	54 % (1990年)
世銀・IMF加盟	年 月	人口密度	38.3人/km ² (1991年)
		人口増加率	3.8% (1991年)
		平均寿命	平均 男54 女57
		5歳児未満死亡率	127/1000 % (1991年)
		カロリー供給量	2577.0 千kcal/人 (1989年)

経済指標			
通貨単位	CFAフラン	貿易量	百万円 (1991年)
為替レート	CFA50 (1994年1月)	輸出	3,506 百万円
会計年度	1月~12月	輸入	2,240 百万円
国家予算	億CFAフラン (1990年度)	輸入カバー率	63.9 (1991年)
一般会計	4,898 億CFAフラン	主要輸出品目	コーヒー、木材
特別会計	1,259.8億CFAフラン	主要輸入品目	食料、飲料、石油、機械
国際収支	△ 986百万円 (1991年)	日本への輸出	16.3百万円 (1992年)
ODA受取額	632.83 百万円 (1991年)	日本からの輸入	83.8百万円 (1992年)
国内総生産(GNP)	10,000 百万円 (1991年)		
一人あたりGNP	690円 (1991年)	外貨準備総額	10.8百万円 (1992年)
GNPの産業別構成	農業 34.7 %	対外債務残高	188.47 万円 (1991年)
(88)	鉱工業 19.8 %	対外債務返済率	39.1 % (1991年)
	サービス業 45.5 %	インフレ率	2.0 % (1990年)
産業別雇用	農業 80.0 %		
(85)	鉱工業 %		
	サービス業 %	国家開発計画・	
経済成長率	△ 0.1% (1991年)		

気象(1991年~		年平均)		場所: ヤムスクロ		標高 m)							観測
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
最高気温													℃
最低気温													℃
平均気温	26.7	27.3	27.6	27.7	27.2	25.9	25.1	24.1	24.6	25.9	27.0	26.9	℃
降水量	23.6	58.4	122	159	34.3	662	336	30.9	59.9	177	158	109	mm
雨期/乾期	海岸沿いの国土の1/3は熱帯雨林地帯に属し、高温多湿。												